

武卷之四

火

和深朗詠集下

雜

風

雲

晴

曉

松

竹

草

鶴

猿

管絃

付舞妓

文詞

付遺文

酒

山

付山

水

付魚父

禁中

古京

故宮 付故宅

仙家 付道士隱倫

山家

田家

隣家

山寺

佛事

僧

閑居

眺望

餞別

行旅

庚申

帝王 付法皇

親王 付王孫

丞相 付執政

將軍

刺史

詠史

王昭君

妓女

遊女

老人

交友

懷舊

述懷

慶賀

祝

戀

無常

白

白
 野
 新
 道
 精
 王
 趙

雜

風

春風暗剪庭前樹
 夜雨偷穿石上苔
輔倡

入松易亂欲惱明君之
 魂流水不歸應送

列子之乘

漢主手中吹不駐
 徐君塚上扇猶懸

班姬裁扇應誇尚
 列子懸車不往還

慶保

保解

紀納

下

上

野凡此少くにつきてもて思ふれ
とほの葉をうらみおとすてまじ
不のくやちりあやまれ月のつぎ
ふら吹とらふお山たけのつぎ

雲

竹斑湘浦雲凝鼓瑟之蹤鳳去秦臺月老

吹簫之地

張讀

山遠雲埋行客跡松寒風破旅人夢

麻名

盡日望雲心不繫有時見月夜方閑

元積

漢皓避秦之朝望礙孤峯之月陶朱辭越

之暮眼混五湖之煙

山言

暫借崎嶇非戴石空偷峻嶮宣生松

都在中

漢帝龍顏迷處誰主雞翅失留連

以言

たるよの山れよのし

漢書

晴

煙消門外青山近露重窓前綠竹低

鄭師丹



下

○又二

紫蓋之嶺嵐疎雲收七百餘里之外曝布之
 泉波冷月澄四十尺之餘
 雲消碧落天膚解風動清漪水面皺
 雙鶴出阜披霧舞孤帆連水與雲消
 歸嵩鶴舞日高見飲渭龍昇雲不殘
 以言
 惟成
 都良香
 管三品

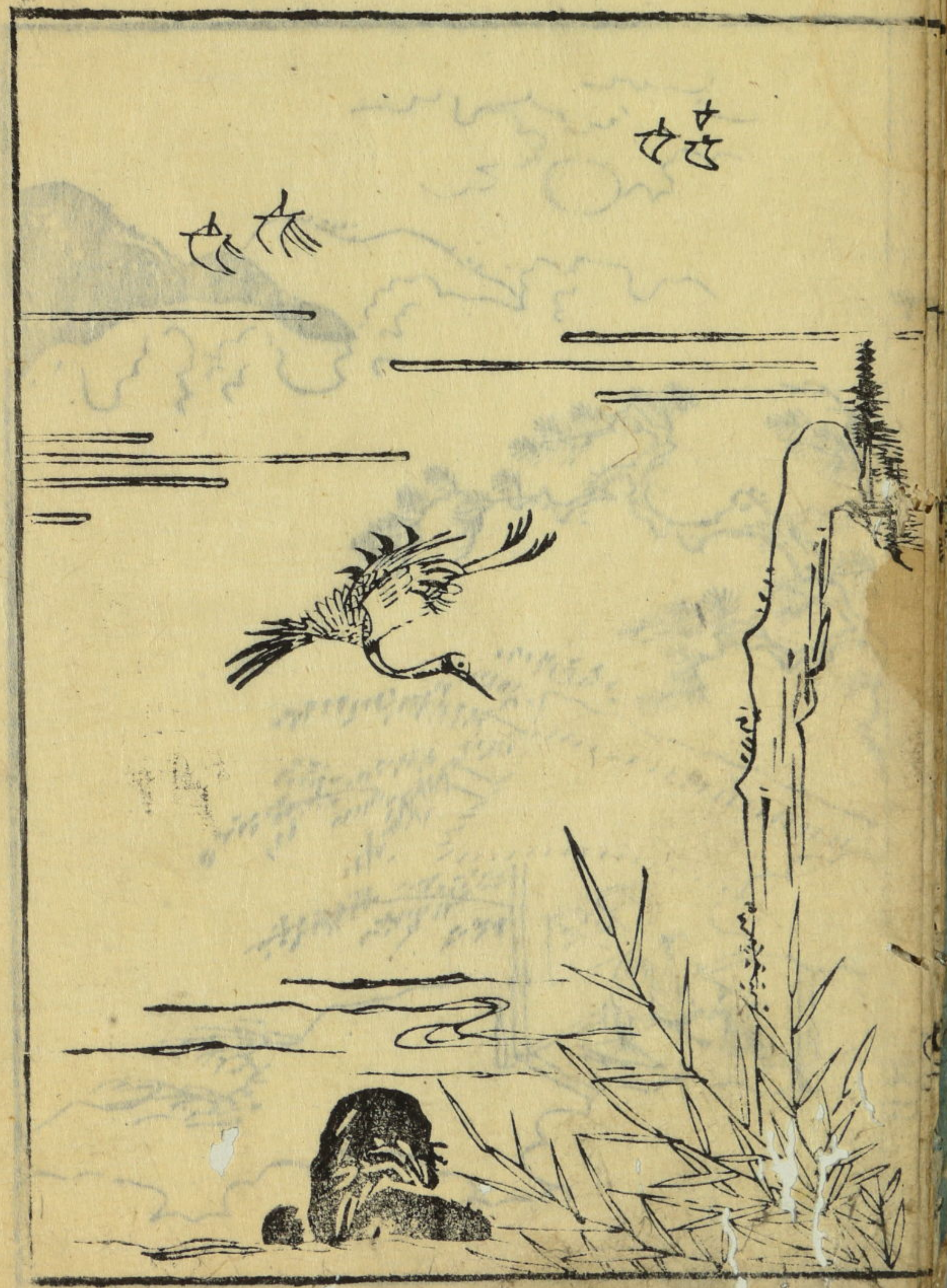
曉

新加... 曉... 雲消... 雙鶴... 歸嵩... 以言... 惟成... 都良香... 管三品

佳人畫飾於晨耕魏宮鐘動遊子猶行於
 殘月函谷雞啼
 幾行南去之鴈一片西傾之月赴征路獨
 行之子旅店猶局泣孤城百戰之帥胡笳
 未歇
 嚴粧金屋之中青蛾正畫罷宴瓊筵之上
 紅燭空餘

謝觀

買寫



廿七

廿七

五聲宮漏初明後一點窓燈欲滅時
ありけりよきれりしきりしきりしきりし
ありけりよきれりしきりしきりしきりし

松

但有雙松當砌下更無一事到心中
青山有雪諳松性碧落無雲稱鶴心
千丈凌雪應喻愁康之姿百步乱風誰破
養由之射

紀納言

九夏三伏之暑月竹含錯午之風玄冬素
雪之寒朝松彰君子之德
十八公榮霜後露一千年色雪中深
會雨嶺松天更霽燒秋林葉火還寒
己まきけりしきりしきりしきりし
いあひりしきりしきりしきりし
あゆみしきりしきりしきりし
あゆみしきりしきりしきりし
あゆみしきりしきりしきりし

江相公

順

法

竹

煙葉蒙籠侵夜色エニ エウ モウロウタリクニイロフ風枝蕭颯欲秋聲カウサウタリボタルキキニクニ白ク

阮籍嘯場人步月セキガウツクニハヒトアツキニ子猷看處鳥栖煙ユウガミルヒロハトリスムケクリ章孝標シヨウキョウヒョウ

晉騎兵參軍王子猷シンキキヘイサンゾウ猷裁稱此君唐太子賓ユウウヘセウニクニトウノタイヒン

客白樂夫愛為吾友カクハクラクテハアリスワガトモ 篤茂トクモ

送笋未抽鳴鳳管盤根纒點卧龍文ハクシニイダズテナイホウククダニ前中書

うまゆい...の...
うまゆい...の...
うまゆい...の...

ま...
ま...
ま...

草

沙頭雨深泥キトヘアメノム草水高風駭クニニミタケカセ瑟波シツハルヒ白シロ

西施顏色今何在セイシガカンシヨクニ應在春風百草頭オレアルヒヤクサウホトリ元稹ゲンジン

飄蕩屢空草滋顏淵之巷ヒヨウタニヒバクカサニゲシガニ藜藿深鏢雨濕チライイテウフカクトサスアメウルサス

原憲之樞ゲンケンガトボツラ 直轄チキョク

草色雪晴初布護鳥聲露暖漸綿クサノイロハユキハシテホコセリトリノコエツユアタタカヤクニ蠶ハタハリ



花山有馬蹄猶露傳野無人路漸滋
 加此とつらりつらりつらりのこいりつらり
 おははつらりつらりつらりつらりつらりつらり
 やつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり
 志

鶴

嫌少人而踏高位鶴有糸軒惡利占之覆
 邦家雀能穿屋

賈寫



同李陵之入胡但見異類似屈原之在楚
オホシリヒラカ イヒコトスミイヒケラニクダゲカ アヒソコニ
 衆人皆醉
シウジンニシテサケリ
 皇甫曾
クワフソウ

聲來枕上千年鶴影落盃中五老峯白
コトハキキルニシテシヨウニセンチシノシルカガハオウハイチワニゴラウホウ
 白
シロ

清唳數聲松下鶴寒光一點竹間燈白
セイライススセイセウカノシルカニツライツテンチクカニノトモヒ
 白
シロ

雙舞庭前花落處數聲池上月明時鶴歸
エヒヒナフテイセニザノオウルトコロスセイハチニヤウニツキノイモラケルトキツルカヘル

舊里丁令威之詞可聽龍迎新儀陶安公
キウリテイレイイガコトヒキツレウイカフシニギウノウアノコウガ

之駕在眼
シモノアリニミタシ

新良翁
ニシラウ

飢鶻性躁恣乳老鶴心閑緩眠同

川漢遙驚孤枕夢和風漫入五絃彈

わが心は ひとり ひとり ひとり ひとり ひとり

おぼろげに ひとり ひとり ひとり ひとり ひとり

ちよりの せむぎ に ひとり ひとり ひとり ひとり ひとり

猿

瑤臺霜滿一聲之玄鶴啖天巴峽秋深五

夜之哀猿叫月

江從巴峽初成字猿過巫陽始斷腸

三聲猿後垂鄉淚一葉舟中載病身

胡鷹一聲秋破商客之夢巴猿三叫曉霜

行人裳

入煙一穗秋村僻猿叫三聲曉峽深

曉峽蘿深猿一叫暮林花落鳥先鳴

江相公

順

赤人

伊

月

謝

澄明

紀綱

谷靜纜聞山鳥語
榭危斜踏峽猿聲
同
やうりーらひやうー
やうりーらひやうー
やうりーらひやうー

管絃 付舞妓

一聲鳳管秋驚秦嶺之雲
數拍霓裳曉送

緱山之月

公宗億

第一第二絃索
秋風拂松疎韻落第三
第四絃冷
夜鶴憶子籠中鳴
第五絃聲

尤掩抑瀧水凍咽流不得

隨分管絃還自足
等閑篇詠被人知

頓令燈下裁衣婦
誤剪同心一片花

羅綺之為重
衣妬無情於機婦
管絃之在

長曲怒不關於伶人

落梅曲舊脣吹雪
折柳聲新手掬煙

相如昔挑文君
得莫使簾中子細聽

しほのこにそねのさしめかきし
しほのこにそねのさしめかきし

文詞 付遺也

沈詞拂悦若游魚銜鈎出深淵之底浮藻

連翩若翰鳥纓繳隊曾雲之峻 陸士儉

遺文三十軸 金玉聲龍門原上土埋

骨不理名 白

言語巧偷鸚鵡舌文章分得鳳凰毛 元稹

錦帳曉開雲母殿白珠秋寫水精盤 章孝標

昨日山中之木材取於已今日庭前之花

詞慙於人 薦茂

王朗八葉之孫披徐蒼事之舊草江淹

時之友集范別駕之遺文 順

陳孔璋詞空愈病馬相如賦只陵雲 華敬

贈爵新恩銘刻石獲麟後集世知丘 以言

いひつらりれをき毎かたりきいひつらり
ひひのこののひひのわいひひのわいひひの

酒

新豐酒色清冷於鸚鵡盃之中長樂詩聲

幽咽於鳳凰管之裏

晉建威將軍劉伯倫嗜酒作酒德頌傳於

世唐太子賓客白樂天亦嗜酒作酒功讚

以繼之

公景億

白

臨風抄秋樹對酒長年久醉負如霜葉雖

紅不是春

生計抱來詩是業家園忘却酒為鄉

茶能散悶為功淺萱道怠憂得力微

若使榮期兼解醉應言四樂不言三

醉鄉氏之國四時獨誇溫和之天酒泉郡

之民一項未知涇陰之地

同

同

同

同

匡衡



菓則上林苑之所献會自消酒是下若村

之所傳傾甚美

先逢阮籍為鄉導漸就劉伶問土風

邑隣建德非行步境接無何便坐亡

王勣鄉霞縈浪脆愁康山雪逐流飛

五言の
ひくあ
山付山水

江相公

橋相公

後中書王

保胤

山付山水



黛色^{ツクリイ} 迫臨^{ハシ} 蒼海上^{サウカイ} 泉聲^{セン} 遙落^{ハシ} 白雲中^{ハクウン} 賀蘭蓮
 勝地^{セウチ} 本來^{モトヨリ} 無定^{ムサビ} 主^{ヌシ} 大都^{オホヨソ} 山^{ヤマ} 屬^{ユキ} 愛^{アイ} 山人^{サンジン} 前在中
 夜鶴^{ヨルノニ} 眠驚^{スミオドロ} 松月^{マツグハツ} 苦曉^{クシヨウ} 鼉飛^{カウビ} 落峽^{オチテカラ} 煙長^{エンナガ}
 紈扇^{ウヰンセン} 拋^{ナゲ} 未青^{ムネアヲ} 黛露^{タイロ} 羅帷^{ラヒ} 卷^{マク} 却翠屏^{セキスイヘイ} 明^{アカリ} 後中書呈
 衆籟^{シュウサイ} 曉興^{シヨウキョウ} 林頂^{リンテイ} 老群^{ラウグン} 源暮^{ゲンモ} 叩谷^{ウチヤ} 心寒^{シンカン} 以言
ついで
 打あきののや...

山ミ水ミ
山ミ水ミ
山ミ水ミ
山ミ水ミ
山ミ水ミ
山ミ水ミ
山ミ水ミ
山ミ水ミ
山ミ水ミ
山ミ水ミ

山水

泰山タイ不讓バズ土壤トウ故能コト成其ニ高タカ河海カ不厭バ細コ

流故リウ能成ニ其深シ

巴猿ハ一叫イツ停舟テイ於ニ明月峽メイ之邊ノ胡馬コ忽斷ツ

失ウ陷チ於ニ黃砂ワウ磧キ之裏ニ

礙サ日暮ヒ山青カ簇ク浸シ天秋テン久白キウ茫マウ白ハク

泰山不讓土壤故能成其高河海不厭細
流故能成其深
巴猿一叫停舟於明月峽之邊胡馬忽斷
失陷於黃砂磧之裏
礙日暮山青簇浸天秋久白茫白

漁舟イ火影ヒ寒燒カ浪ナミ驛エキ踏フミ鈴聲スズ夜過ヨ山ヤマ
山ヤマ似ニ屏風ビョウ江カ似ニ葦アシ叩ヒキ舷ゼン來往ライ月明ツキ中ノ劉禹錫リウ
草木クサ扶疎ボソ春風ハル梳カ山ヤマ祇ヒ之髮カミ魚鼈イサ遊ユ戲アソ秋アキ
水字ミ河伯カ之民タ
韓康カン獨往ドク之栖ス花藥ハナ如ニ舊キウ范蠡ハ扁舟ヘン之泊トク
煙波エン惟新ヒ
山復ヤマ何ナニ工コト削成セツ青巖セイ之形カタ水復スイ誰家タレ

江澄明

同

下

染出碧潭之色

同

山郵遠樹雲開處海岸孤村日霽時

直轄

山成向背斜陽裏水似迴流迅瀨間

江相公

神ナシムノのらじる此岸もやくいん

水付漁父

邊城之牧馬頻嘶平砂眇々行路之征帆

盡去遠岸蒼々

謝觀

洲香杜若抽心長沙暖鴛鴦鋪翅眠

帆開青卓湖中去衣濕黃梅雨裡行

水驛踏穿兒店月花船棹入女湖春

菰蘆杓酌春濃酒舴舺舟流夜漲灘

閑居屬於誰人紫震殿之本主也秋水見

於何處朱雀院之新家也

垂釣者不得魚暗思浮遊之有意移棹者

唯聞鴈遙感旅宿之隨時

菅

沙頭刻印鷗遊處水底摸書鴈度時

後江相公

日脚波平孤島暮風頭岸遠客帆寒

平直轄

あはれふかふをやはらしくしつらん
あはれふかふをやはらしくしつらん
あはれふかふをやはらしくしつらん

禁中

鳳池後面新秋月龍闕前頭薄暮山白

秋月高懸空碧外仙郎靜翫禁園間白

三千仙人誰得聽含元殿角管絃聲

韋孝標

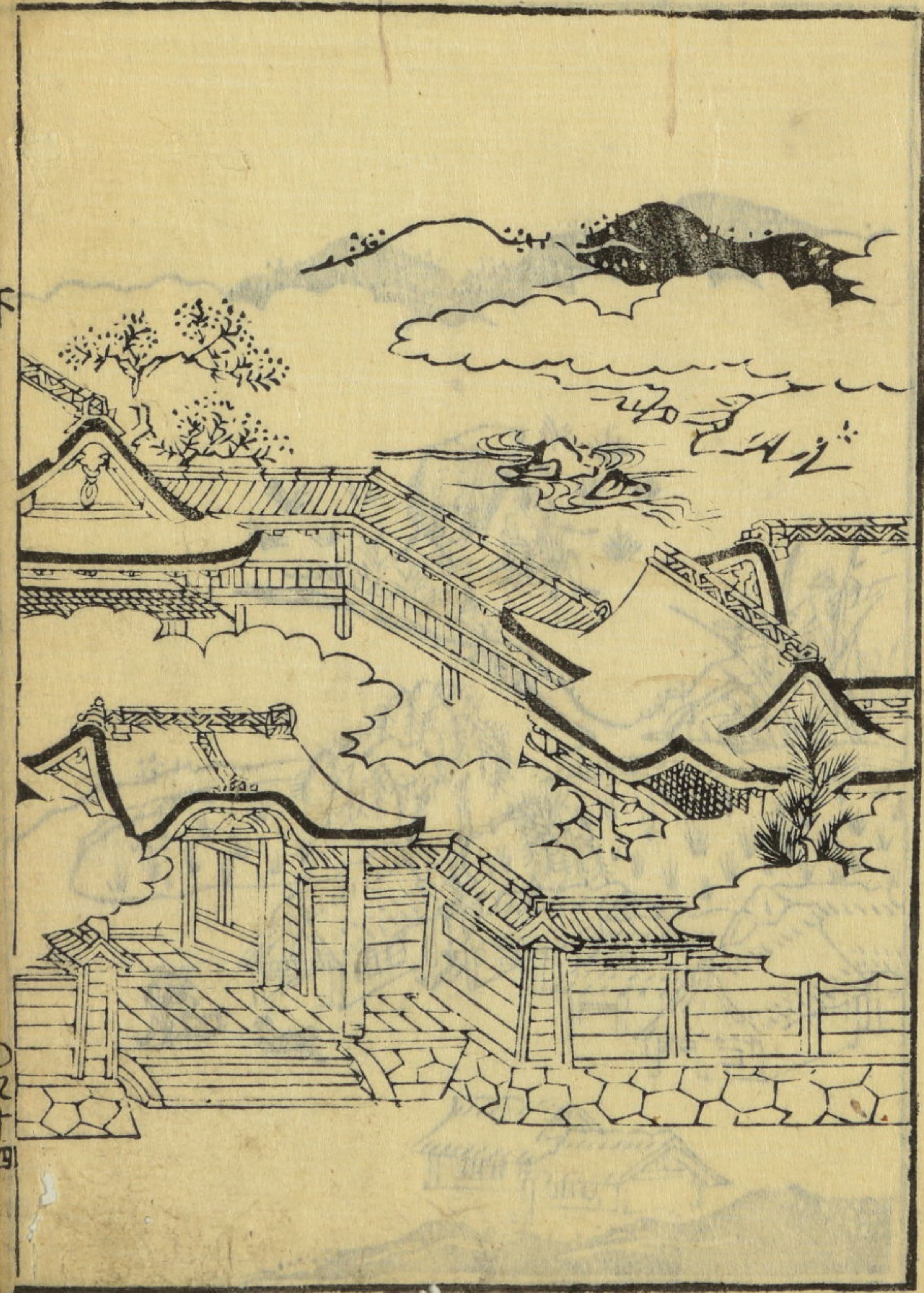
鷄人曉唱聲驚明主之眠鳧鐘夜鳴響徹

暗天之聽

都良香

朝候日高冠額拔夜行沙厚履聲忙

あはれふかふをやはらしくしつらん
あはれふかふをやはらしくしつらん
あはれふかふをやはらしくしつらん



古京コキョウ

綠草キナンド如今イマ麋鹿ヒノ苑エン紅花ベニバナ定サダメ昔ムカシ管絃ケンゲン家カ 菅三品

心ココロ之ノ妙ミタカシ不可イカ及レ言コト也ナリ

故宮コキウ 付故宅

陰森インシン古柳コリウ疎槐ソケイ春無ハルナシ春色ハルノイロ獲落ウケノチ危キ慵ヨウ壞クワシ宇ウ

秋有アキアリ秋聲アキノネ

臺傾滑ダイカウカス右猶殘ミダマニ砌セキ簾斷レンタガヒ真珠マシユ不ズ滿ミツ鈎カギ 公乘億



強兵滅号有荆棘姑蘓臺之露深暴秦
キョウヘイ トクガウ アリ ナギキキコ ノノ タイノ ツユ シロクダツキ
 衰兮無虎狼感陽宮之煙片
オヒクニ ナシコ ムラカニ カニヤウキウノ タケヒ
 老鶴從來仙洞駕寒雲在昔妓樓衣
ラウカク ゴモヨリ センドウカサカニ クモニ トラノキノ ナギロノヒツキ
 孤花裏露啼殘粉暮鳥栖風守廢籬
コハナ ノニテツクラナラガザ フニホニ ムナラシテカゼヲモルイリヲ
 向晚簾頭生白露修膏床底見青夫
オシタタカニ スクランホトリニシヤンハク ロウラ ヨモエガノ トノモトニ ミレセイテニヲ
 荒籬見露秋蘭泣深洞聞風老櫓悲
クラシラニ ミラニテツユニ シヨクランナキニシニ トロニキケカニ カゼヲラシメ
 月夜神をぬれり

源英明

三善安相

身之如くして... 仙家付道士隱倫

仙家付道士隱倫

壺中天地乾坤外夢裡身名且暮間
藥爐有火丹應伏雲確無人水自春日
山底採薇雲不狀洞中栽樹鶴先知
三壺雲浮七萬里之程分浪五城霞峙十

二樓之構挿天

都良香

奇犬吠花聲流於紅桃之浦驚風振葉香

分紫桂之林

同

謬入仙家雖為半日之客恐歸日里纔逢

七世之孫

淺江相公

丹竈道成仙室靜山中景色月華低石床

留洞嵐空拂玉案拋林鳥獨啼桃李不言

春幾暮煙霞無跡昔誰栖王喬一去雲長

斷早晚笙聲歸故溪

商山月落秋鬢白頽人波揚左耳清

虛澗有聲寒溜咽故山無主晚雲孤

通夢夜深蘿洞月尋跡春暮柳門塵

竹影山家

山家

遺愛寺鐘歌枕聽香爐峯雪撥簾看白
蘭省花時錦帳下廬山雨夜草菴中同
漁父晚船分浦釣牧童寒笛倚牛吹
王尚書之運府麗則麗恨唯有紅顏之賓
嵇中散之竹林幽則幽嫌殆非素倫之士
南望則有關路之長行人征馬駱驛於翠
簾之下東顧亦有林塘之妙紫鴛白鷓道

遙於朱檻之前

順

山砧日暮滿耳者樵歌牧笛之聲澗戸鳥

歸遮眼者竹煙松霧之色

紀納言

花間寬友鶯交語洞裏移家鶴卜隣

紀納言

晴後青山臨牖近雨初白水入門流

都良香

觸石春雲生枕上銜峯曉月出窓中

直轄

やうりくはけあそも淋いさ酒さりてり

後人

やうりくはけあそも淋いさ酒さりてり
くはけあそも淋いさ酒さりてり

宗千

田家

碧毯線頭抽早稻青羅裙帶展新蒲白

守家一犬迎人吠放野群牛引犢休

都良香

野酌卯時桑葉露山畦甲白稻花風

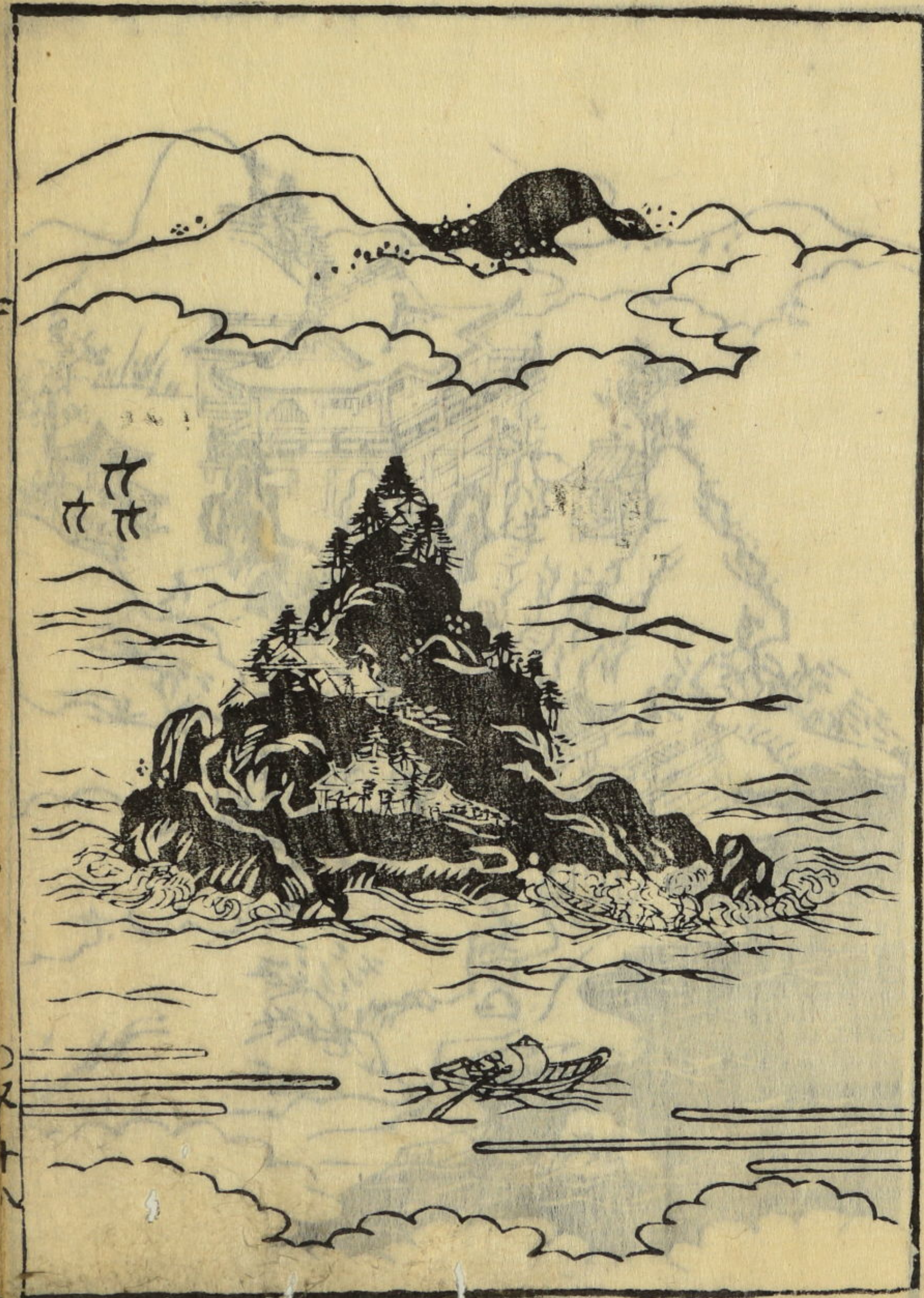
紀齊名

蕭索村風吹笛處荒涼隣月擣衣程

高相如

ささるる乃ゆん人になうせてり

高相如



さらばいづれはさきへはしりてくおひわく
 河はんくしゆまはさうくさるまき
 身のふしそさるへらうくはのふに
 いれもしうくまそ社風そふく
 野
 野

隣家

明月好同三夜緑楊宜作兩家春可獨
 終身數相見子孫長作隔牆人
 池邊別業是何人聞道陸張昔卜憐花枕
 波聲分岸夢當簾柳色兩家春
 白
 菅三品



春煙迹讓 蒼前色 曉浪潜分枕 上聲 直轄
 寺みくろ 居くろく 和くろく くるくろく くるくろく くるくろく くるくろく くるくろく

山寺

千株松下 雙峯寺 一葉舟中 萬里身白
 更無俗物 當人眼 但有泉聲 洗我心
 不改朝天之門 便作求車之處 不變閑人
 之橋 以為到岸之途

野相公

策馬來時唯思風煙之可翫逢僧談處漸

覺世俗之皆空源英明

人如鳥踏穿雲出地是龍門迹水登菅丞相

三千世界眼前盡十二因緣心裡空都良香

泉飛雨洗聲聞夢葉落風吹色相秋高相如

山色如畫此乃吾人之心境也
此乃吾人之心境也
此乃吾人之心境也
此乃吾人之心境也

佛事

月隱重山兮舉扇喻之風息太虛兮動樹

教之智者大師

願以今生世俗文字之業狂言綺語之誤

翻為當來世讚佛宗之因轉法輪之緣

百千方劫菩提種八十三年功德林同白

十方佛土之中以西方為望九品蓮臺之

間雖下品應足

保胤

雖十惠兮猶引接甚於疾風之披雲霧雖

一念兮必感應喻之巨海之納消露

昔初利天之安居九十日刻赤梅檀而模

尊容今跋提河之滅度二千年瑩紫摩金

而禮兩足

江匡衡

浪洗欲消鞭竹馬而不顧雨打易破闢芥

雞而長忘

保胤

念極樂之尊一夜山月正圓先勾曲之會

三朝洞花欲落

紀齊名

玉磬声思管絃奏納衣僧代綺羅人

野相公

眼蓮萱養清凉久面月長留十五天

齊名

以佛神通何酌盡經僧祇劫欲朝宗

以詩

叩凍負來寒谷月拂霜拾盡暮山雲已終

保胤



斷處晚寺僧歸

張讀

野寺訪僧歸帶月芳林携客醉眠花

堂有母儀莫以逗留於中夫之月室有師

跡足以偃息於五臺之雲

保胤

明鏡乍開隨境照白雲不着下山來

觀空淨侶心懸月送老高僧首剃霜

鶴閑翅刷千年雪僧老肩垂八字霜

源為憲

下

〇三

そくち孫はうれしくしむるは
このくらくらなるをてすや
世の中乃ういふはゆるの
かこいひのしるはゆるの
ここの川のまきよにたけく
わくはるはまきよにたけく
玄賓

閑居

不獨記東都履道里有閑居泰適之叟
令知皇唐太和歲有理世安樂之膏
宮車一去樓臺之十二長空隙駒難追綺

羅之三千暗老
幽思不窮深巷無人之處愁腸欲斷閑窓
有月之時

鶴籠開處見君子書空展時逢故人
人間榮耀因緣淺林下幽閑氣味深
官途自此心長別世事後今口不言
蕙帶羅衣袖簪於北山小蘭橈柱檝鼓

張讀



舳舻於東海之東

江相公

都府樓終看瓦色觀音寺只聽鐘聲

菅丞相

晦跡未拋苔徑月避喧猶卧竹窻風

平佐轉

陶門跡絕春朝雨燕寢色衰秋夜霜

以言

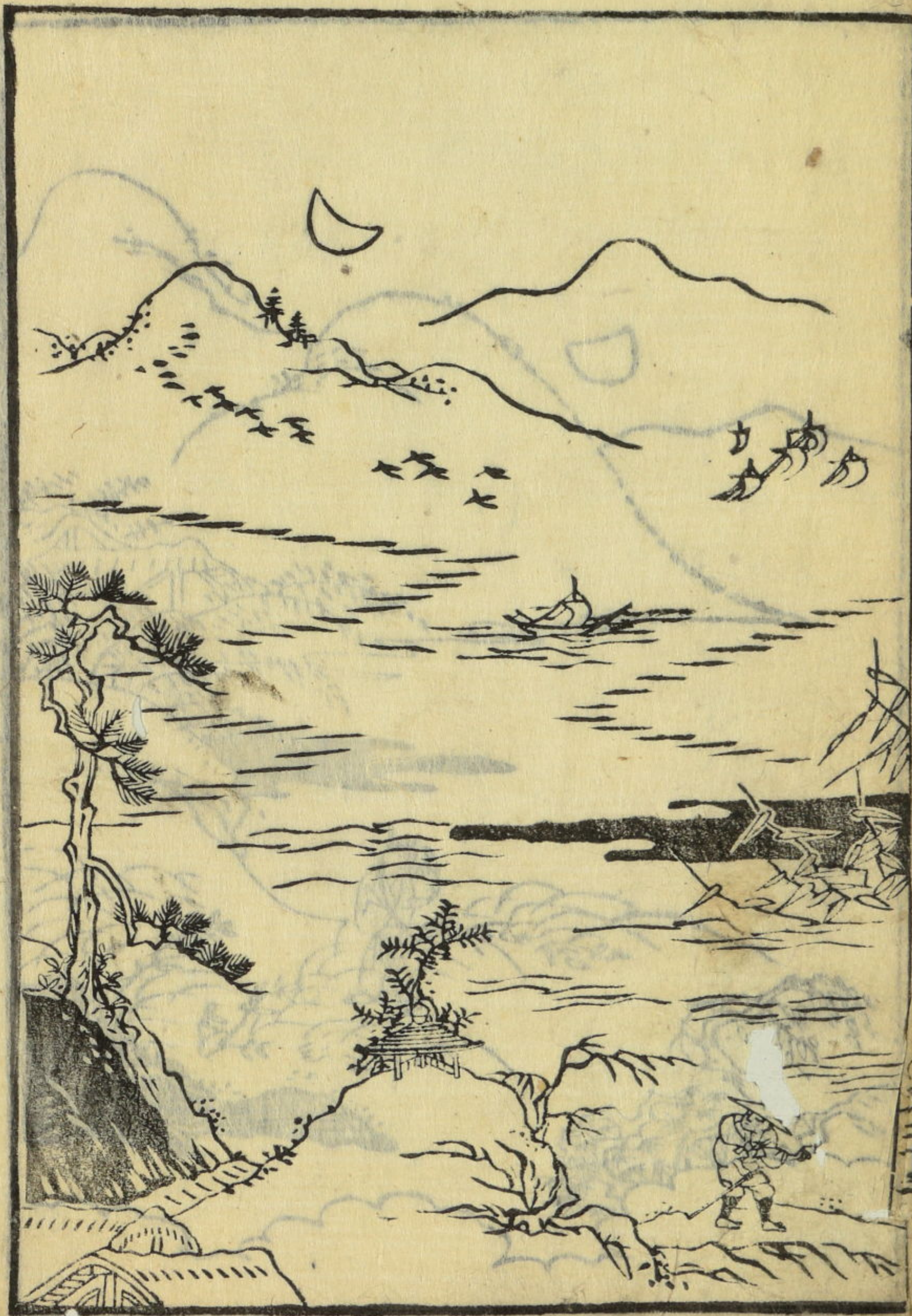
了了也 人字結 小

至昭

眺望

風翻白浪花千片鴈點青夫字一行

白



出紫闥而東望山岳半抹雲根之暗躋翠
 嶺而西顧家鄉悉沒煙樹之深
 見天台山之高巖四十五尺波白望長安
 城之遠村百千萬莖薺青
 江霞隔浦人煙遠湖人連天鴈點遙
 一行斜鴈雲端滅二月餘花野外飛
 老眼易迷殘雨後春情難繫夕陽前

順
 順
 順

作

話

見たりせむ柳はくさるるにたるとも
ふやうにけりあはれきこしるるも
とて

饒別

與君後會知何處為我今朝有一盃白

前途程遠馳思於鴈山之暮雲後會期還

露纓於鴻臚之曉淚

昔聚丹鳥競寸陰於十五年之間今促晝

熊欲分手於三百盃之後

後江相公

順

楊岐路滑我之送入多年李門波高人之

送我何日

万里東來何再日一生西望是長襟

野相公

九枚燈盡唯期曉一葉舟飛不待秋

菅庶幾

欲以浮生期後會還悲石火向風敲

菅

思ひやふらけりけりけりけりけりけり
たよみけりけりけりけりけりけりけり
少しけりけりけりけりけりけりけり
石火向風敲

直野

石火向風敲

以言

ひのけにふかきよのけ
なふわのふかきよのけ
白如

行旅

孤館宿時風帶雨遠帆歸處水連雲 許渾
行重行明月峽之曉色不盡眇復
眇長風浦之暮聲猶深 順
曉入長松之洞巖泉咽嶺猿吟夜宿極浦
之浪青嵐吹皓月冷 蘇雅

渡口郵船風定出波頭謫處日晴看 野相
洲蘆夜雨他鄉淚岸柳秋風遠塞情 直轄
蒼波路遠雲千里薄霧山深島一聲 同

舟のしやけに
あつたれゆ
しんかのりや
そよらけに
くわに
人
五

庚申

年長每勞推甲子夜寒初共守庚申
 已酉年終冬日少庚申夜半曉光遲
 帝王付法皇
 漢高三尺之劍坐制諸侯張良一卷之書
 立登師傳
漢高祖
張良
漢書

項莊之會鴻門寄情於一座之客漢祖之
 歸沛郡傷思於四方之風
 四海安危照掌內百主理亂懸心中
 幸逢堯舜無爲化得作犧皇向上人同
 聖皇自在長生殿不向蓬萊王母家
 仁流秋津洲之外惠茂筑波山之陰淵變
 作瀨之聲寐一閉口沙長為巖之岬岸

下
 〇後

滿耳ミナミ

梁元昔遊春王之月漸落周穆新會西母ミナミ

之雲欲歸クモ ホツス カリシト

布政之庭風流未必敵於崑閬兼之者此シラフコトヲ ユニラシカニカサレニシラ モハコノ

地也好文之世德化未必光于黃炎兼之チホク ヲムフシヨ ヨミナリクハ イカカキタヒニチサ シタヒニカサレニシラ

者我君也モハカ マシニ

榮啟期之歌三樂未到常樂之門皇南謚エイ ケイキガ ウタミサニ ムツクイタラシノ ホニミタラシクホ

同

之述百王猶暗法王之道シノヒト ムツクイタラシクホ

後江相公

玉宸日臨又鳳見紅旗風空盡龍揚タマシロ ヒニカキブシホウミニコウノハタカキタラシクホ

藤原伊周

刑鞭蒲朽螢空去諫鼓苔深鳥不驚ケイヒン ヲシクホウホウカキタラシクホ

江相公

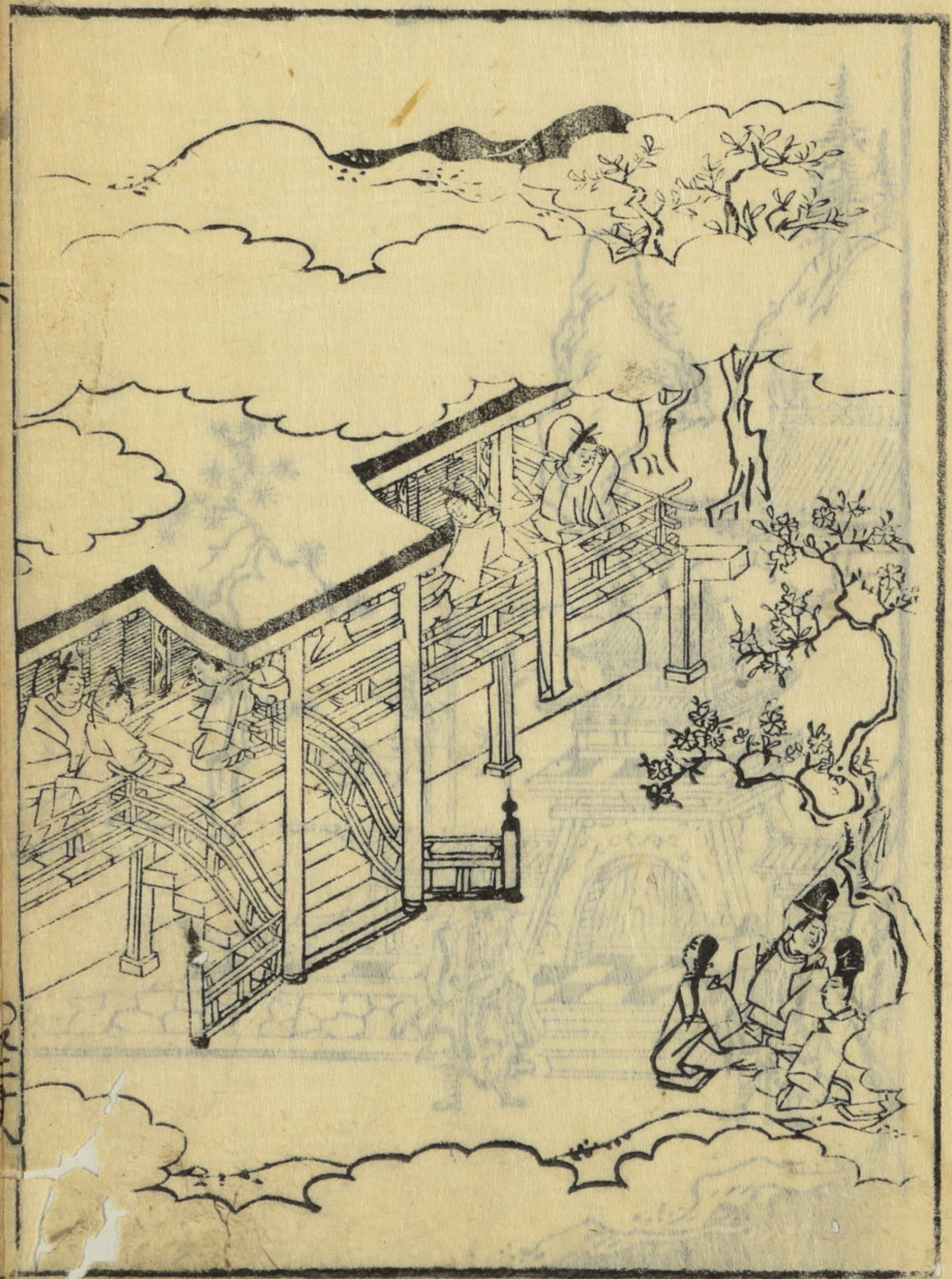
親王付玉孫シニツタフタマシロ

小松天皇

庫車軟輦貴公主香衫細馬豪家郎クラマナニキキコウノヒメカウサセサヤガダカノラツ

親王付玉孫

〇



東平蒼之雅量寧非漢皇褒貴無雙之第
 我桂陽鏢之文辭亦是齊帝寵愛第八
 子也

江都好勁捷也七尺屏風其徒高淮南求
 神仙也一旦乘雲而何益

開卷已知為子道秋風悵望斷湖雲
 我王孝行先何到梧岫秋風一片煙

管三品

順

保胤

管推規



此花非是人間種
 後江相公
 此花非是人間種
 再養平臺一片霞
 晉二品
 此花非是人間種
 再養平臺一片霞
 晉二品

丞相付執政

季文子妾不衣帛
 魯人以為美談
 公孫弘
 身服布被
 汲黯譏其多詐
 後漢書
 百里奚乞食於道
 諸穆公委以政
 穽臧子

飼牛於車下桓公任以國

同上

孫弘閣閣無閑客傳說舟忙不借入

白

西京席門乃是陳丞相之舊宅南山芝澗

寧非袁司徒之幽栖

後江相公

周公旦者文王之子武王之弟自知其貴

忠仁公者皇帝之祖皇后之父世推其仁

傳氏巖之嵐雖風雲於殷夢之後嚴陵瀨

之水猶涇渭於漢轉之初春過夏闌袁司
徒之家雪應踏達且南暮小鄭太尉之溪

風被入知

菅三派

やうしんかきふくろく

菅三派

將軍

三尺劍光氷在手一張弓勢月當心

陸將軍

雪中放馬朝尋跡雲外聞鴈夜射聲

白

下

〇世

千里往来征马疲十年离别故人稀許渾
 隴山雲暗李將軍之在家穎川浪閑蔡征
 虜之未仕菅三和
 職列虎牙維拉武勇於漢四七將學抽麟
 角逐味文章於魯二十篇順
 雄劍在腰拔則秋霜三尺雌黃自口吟亦
 寒玉一聲同

地驚劍影便逃死馬惡衣香欲嗔人都良香
 公忠

刺史

士女笙歌宜月下使君金紫稱花前白
 精明合浦珠相似斷割昆吾劍不如
 雖三百五莫強薛邊土不是醉鄉此一兩
 句可重詠小陸豈亦詩園保瀆

下

世

多きまやれのりしをこれハタシ
たののりゆけにまじりひさり
仁徳天皇

詠史

燈暗數行虞氏淚夜深四面楚歌聲
橋相公

賓鷹繫書秋葉落牡羊期乳歲花空
紀綱言

他日遂逃秦虎口暮年初謁漢龍顏
紀綱言

かろしりるにわかれり
紀綱言

王昭君

愁苦辛勤顛顛あめ今却以畫圖
白

身化早為胡朽骨家留空作漢荒門
紀綱言

翠黛紅顏錦繡粧泣尋沙塞出家鄉邊風
吹断秋心緒隴水流添夜淚行胡角一聲

霜後夢漢宮万里月前腸昭君若贈黃金
賂定是終身奉帝主

江相公

數行暗淚孤雲外一點愁眉落月邊
英明

可引乃山之れある初々人

詳方

妓女

容負似舅潘安仁之外甥氣調如兄崔季

珪カケカ々ヲトキ小妹モウメ

長文成

外人ウキヒト不識シラ承恩オウオン處トコロ唯ただ有アリ羅衣ラクイ深シ御香ミカ

蟬セミ娟ケツ兩鬢リウソン秋蟬シュウセン翼宛ツバサノトコロ轉マユ雙蛾スウカ遠山色エンサンイロ

白

莫怪ナラズ紅巾ベニキマ遮面セツメン咲ウケ春風ハルカゼ吹フ綻ハナ牡丹花ボウナンバナ

同





李延年之飭族託一研心如飛衛子夫之

待時在衆醜而永異

野相公

秋夜待月候望出山之清光夏日思蓮初

見穿水之紅艷

觀

算取宮人才色無粧樓未下詔來添雙鬟

且理春雲軟片黛終生曉月纖羅袖不違

迴火熨鳳釵還悔鑲香奩和風先導薰煙

出。珍重紅房透翠簾

菅

嬾寒錦帳長薰麝惡卷珠簾晚著釵

菅三原

欲死今日新飢慙泣膏先朝舊賜箏

ては凡くは此の如くは

良家宗貞

遊女

秋の未鳴遊女佩寒雲空瀟瀟美山

賀蘭暹

翠帳紅閨万事之禮法雖異舟中浪上

生之歡會是同

以言

和琴緩調除潭月唐櫓高推入水煙

順

のよる乃ら此れは

老人

昔為京洛聲花客今作江湖潦倒翁

老眼早覺常殘夜病力先衰不待年

再三憐必非他事天寶遺民見漸稀

同

紅榮黃蕊一樹之春色秋聲結後袖窻下

身之壯心老思體三品

少竹樂天三年猶已衰之齡也遊於勝地

一日此是老之幸哉同

太公望之遇周文渭濱之波墨面騎里季

之輔漢惠高山之月垂眉江國衡

水無返夕流年淚花豈重春暮齒粧林霧

校聲鶯不老岸風論力柎猶強菅三品

醉對落花心自靜眠思餘筆淚先紅雅規

Handwritten notes in cursive script, including characters like 中, 月, 心, 自, 靜, 眠, 思, 餘, 筆, 淚, 先, 紅, 雅, 規.

交友

琴詩淹友皆抱我雪月花時最憶君白

陽春曲調高難和淡水交情老如知同

Handwritten marginal notes on the left edge of the page.

昔年碩我長青眼シラカキ今自逢君已白頭イマニキ許渾シラカキ
蕭會愁之過古廟託締異代之交張僕射シラカキ
之重新才推為忘年之友シラカキ 後江相公

裴文務後聞君久營禮部孤見我新シラカキ 鄭茂

策人シラカキの代りてしるす心シラカキ
所シラカキの心シラカキの心シラカキの心シラカキ
懐舊シラカキ

黃壤誰知我白頭シラカキ獨憶君唯將老年淚シラカキ

灑故人文シラカキ

長夜君先去殘年我幾何シラカキ秋風滿衫淚シラカキ

下如人多シラカキ

往事眇茫都似夢シラカキ回遊零落半歸泉シラカキ 同

蘓州船故龍頭暗シラカキ玉尹橋傾鴈志斜シラカキ 同

金谷醉花之地シラカキ花每春白而主不歸南樓シラカキ



翫月之人月與秋期而身何去

菅三郎

王子昔々昇仙後人立祠於維嶺之月半

太傳之早世行客墜淚於岷山云

促齡良本其摧歎遺愛甘棠勿剪謠

いふべし中のほろわく

あやしくせむしむかひ

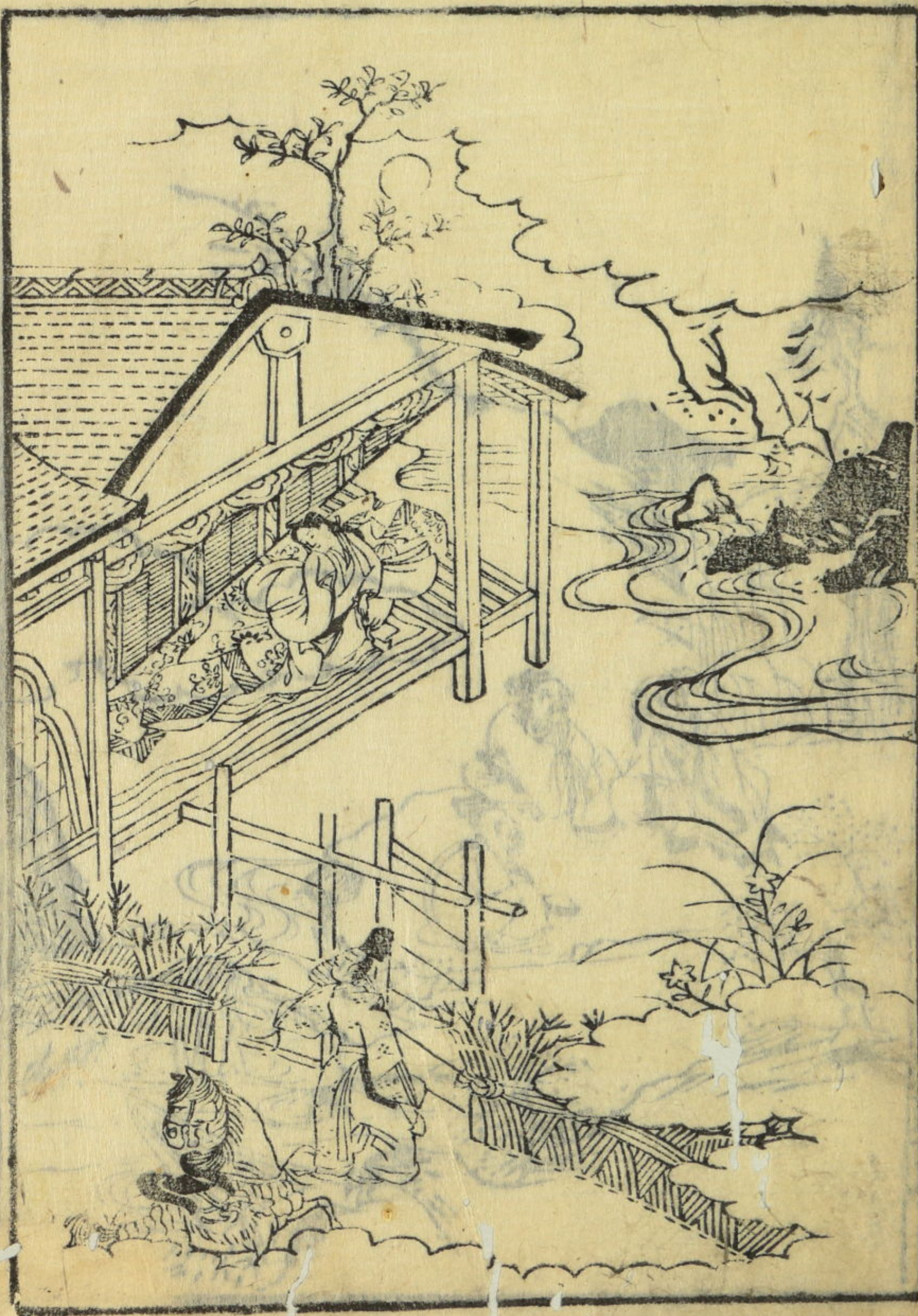
世のかりにむしむかひ

左まはるおのりむかひ

野美材

村上

破



述懷

專諸荊卿之感激侯生豫子之投身心為
セシヨウケイガカゲイロウサキヨシガトシマシヨハタニ

恩使命依義輕
オノツケニヨハヨクキニカヨシ

范蠡收責勾踐乘扁舟於五湖各犯謝罪
ハシイオセラコウセシニフナシニシラフゴコニキウハシ

文公之遠巡於河上
ブンコウニタニニシニカニシ

敬其磧礫不窺玉淵者不知驪龍之所蟠
ヒヤクニシタラセキラガヒウカハキウヒシラモルコトヲシラフコトヲシラフ

習之弊邑不視上邦者未知英雄之所躔
ナラフコトヲシラフコトヲシラフコトヲシラフ

在天仲吳都賦

後漢書文

人間禍福愚難断世上風波老不禁白

車前驥病駑駘逸架之鷹閑鳥雀高許渾

事々無成身也老醉卿不去欲何歸白

范蠡收青棹扁舟而逃名謝安辞功鞭狐

雲而養志後江相公

昇殿是象外之選也俗骨不可踏蓬萊

之雲尚書亦天下之聖也庸才不可以攀

臺閣之月直幹

齡垂顏駟過三代而猶沈恨同伯鸞歌五

噫而守去橘正通

言下暗生消骨火咲中偷銳刺人刀春通

載鬼一車何足畏掉巫三峡未為危前畫

楚三閭醒終何益周伯夷飢未必賢橘侯草

のたてまはりのやわらび

併

〇無

在比多のけとてと町くてもねるし
くやとわあやしもてしなれぬ
かか計へくくこたせのさうし
くやくくくくくくくくくくく
解

慶賀

劍佩曉趨雙鳳闕 煙波夜宿一漁船 白
錢塘去國三千里 一道風光任意看 章孝標
想得江南諸父老 因君鞭撻子孫多 同
吏部侍郎職侍中 着緋初出紫微宮 銀魚

腰底辭春浪 綾鶴衣間舞曉風 花月一窓
交昔眠雲泥 万里眼今窮省躬 還恥相知
久君是當初竹馬童 正通

祝

嘉辰令月歡也極 萬歲千秋樂未央 謝偃
長生殿裏春秋富 不老門前日月遲 保暉

昔の心はわらわの世にまはるるは
 いづれかたしとてけのじつとせし
 了代ゆへにささけしよとせし
 何れにりしとてたれとせし

戀

仲算

為君薰衣裳君聞蘭麝不馨香
 為君事容飾又見金翠叶顏色

白

更闌夜靜長門闌而不开
 月冷風秋扇背而共絶

長文成

行宮見月傷心色
 夜雨同猿声
 春風桃李花
 秋露梧桐葉
 落時同
 夕殿螢飛思悄然
 穉燈挑盡未能眠
 同
 南翔小嚮難付寒
 温竹秋為東出西流
 只
 寄瞻望於曉月
 後江相
 聞得園中花
 養艷請君許
 折一枝花
 春
 寒園獨卧無夫婿
 不妨角前狂馬蹄
 采女

紀齊名

後江相



負女ツメ 空唯ツメ 月色ツメ 窈娘ツメ 堤ツメ 舊ツメ 獨ツメ 波ツメ 聲ツメ のツメ 劇ツメ
 わのうらひをゆく鳥
 はふよとかかりと
 そこのえんつこね
 あはれしとありし
 いふと母とありし
 あはれしとありし

無常ムジョウ

觀身クワンミ 岸キ 額ガク 離リ 根ネ 草クサ 論ロン 命メイ 江エ 邊ヘ 不フ 繫ケツ 船セン
 年ネン 歳サイ 花ハナ 相サウ 似シ 年ネン 人ジン 不フ 同ドウ
 宋ソウ 之シ 間カン

しほのあふふのふやとれふ月氣
つらきあきつこのたにもすじふれ
世中ハハゆせんりはくくこくも
うたふもふんはらうてあきれ

白

秦皇驚歎燕丹之去日烏頭深帝傷嗟蘓

武之來時鶴鬢

謝觀

銀河澄朗素秋天又見林園白露圓毛寶

龜歸寒浪底王弘使立晚花前蘆洲月色

隨潮滿葱嶺雲層與雪連霜鶴沙鷗皆可

妾唯嫌年鬢漸皓然

順秀

志んくしんはるわの月氣小
ゆきあやのさしてゆくのふおふ

和漢朗詠集下

和漢朗詠集下

和漢朗詠集下

7500

神肆

村上勘兵衛

貞享元年^{甲子}三月上澣日

洛下 梅村彌右衛門

洛苗寮



九二七三山可キ入子

